知の市場

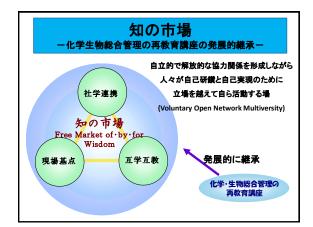
一理念と実践ー

(2017年度実績と2019年度計画) (期間区分変更後)

> 知の市場協議会 2018年12月5日

I-1. 理念と運営

第0期:黎明期(~2003年度) 第1期:形成期(2004年度~2008年度) 第1期:服開期(2009年度~2012年度) 第1期:由立期(2013年度~2017年度) 第1期:金化期(2013年度~2017年度)



知の市場の展開

第0期:黎明期(~2003年度)

第 I 期:形成期(2004年度~2008年度)

第Ⅱ期:展開期(2009年度~2012年度)

自主的かつ自立的な教育活動として新展開

第Ⅲ期:自立期(2013年度~2017年度)

自己研鑚と自己実現のためボランティア活動の基盤完成

第Ⅳ期:進化期(2018年度~)

完全にボランティア活動で運営する教育活動の進展

知の市場 Free Market of by for Wisdom

知識の切り売りを排し、 対面教育を重視



自由な交流を尊重し 知の伝播と普遍化を重視

知恵を持ち寄り 互いの知恵を活かし合う場 自立的で開放的な協力関係を形成しながら 人々が自己研鑚と自己実現のために 立場を越えて自ら活動する場

Voluntary Open Network Multiversity

自主的·主体的



自立的 自律的

ボランティアを基礎におく 信頼と協働の活動

実社会に根ざした

知の世界の再構築

多様な人々が活かせる



使い勝手の良い知識体系

現場基点

互学互教

社学連携

知識体系の再構築

供給(学・産・宗)側の知識体系

需要(社会・人々)側の知識体系

現実の社会を踏まえて

使い勝手の良い知識体系

百科全書

1751年から1772年まで20年以上かけてフランスで完成した大規模な百科事典。

運営の基本方針

- 1. 総合的かつ実践的な学習機会の提供
 - 総合的な学習機会を提供するとともに実践的な学習機会を提供する。このため、社会の広範 な領域で活動を展開する機関が協力し、実社会で実践してきた多彩な講師によって開講する。
- 2. 充分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択 科目、駒野など開闢に関する情報を充分に提供し、受講者が自己責任により自由に受講科目 を選択することを基本だする。このため科目の内容や開鮮の受賞などを事前に公開する。
- 3. 広範な分野の多様な社会人を対象
 - 学生・院生を含む広範な分野の多様な社会人の受講を想定し、強い学習動機と積極的な参加 意思を有する者を受講者とすることを基本とする。
- 4. 大学・大学院に準拠した厳しい成績評価と受講修了証の発行 大学・大学院に準拠した厳い成績評価を行うことを原則とし、所定の成績を修めた受講者には受験者で証を発行されている。
- 5. 大学・大学院の履修科目としての活用
 - 間々の大学・大学院が開業する科目を学生・院生の履修科目として位置づけ単位取得の対象 とすることを奨励するとともに、社会人の修士号、博士号の取得に活用することを推奨する。 また、社会人に対して学技教育法に基づく履修証明書を発行することを勧奨する。
- 6. 連携・協力関係の深化と教育における新たな活動
 - 開腺機関や連携機関などが「知の市場」の活動を通して酸成した信頼関係をもとに、若い力を 複雑的に斜合しながら連携・協力関係を深化させ、教育において新たな活動を試みることを推 美し、支援する

知の市場

一全関係者一

理念と基本方針を共有して協働



- 1. 受講者 2. 講師 3. 開講機関
- 4. 連携機関 5. 協議会 6. 評価委員会 7. 連携学会 8. 協力者・協力機関 9. 友の会
 - 10. 有志学生実行委員 11. 事務局



自律的な判断により自立的に役割を実践

知の市場の構成

共催講座:

「知の市場」の理念と基本方針に沿いつつ「知の市場」の運営体制を踏まえて、連携機関の協力のもと開講機関が主催する。

関連講座:

「知の市場」の基本方針を念頭に置きつつ諸般の情況を踏まえて個々の開講機関が自らの主体性と責任のもと柔軟かつ弾力的に運営する。

再教育講座や共催講座での経験を活かし自立した活動、および 開講機関や連携機関が自主的に実施する自己研鑽と自己実現 に資する活動などであって、「知の市場」の理念を共有する活動。

多様な事情に応じ得る弾力性の確保

参画者の連携強化の方策

- 1. 知の市場の理念・基本方針の公開
- 2. 諸規定の充実と公開
- 3. 運営体制の簡素化・効率化と協働関係の強化
 - 1) マニュアルや受講修了証などの諸様式の標準化
 - 2)「知の市場」のロゴマークの統一
 - 3) 共通受講システムの導入
 - 4) 参画機関のHPの整備と相互リンク
- 4. 学生・院生の若い力と社会人有志の経験を積極 的に活用

理念を共有しつつ各機関の主体性の尊重 規範の統一と手段の標準化による連携強化

規定による協働関係の強化 知の市場一理念と運営ー 応募及び受講に関する規定 応募にあたっての留意点に関する細則 応募方法に関する規定 成績評価及び受講修了証などの発行に関する規定

奨励賞の授与に関する規定

連絡方法に関する規定 受講者、講師等への連絡方法に関する細則

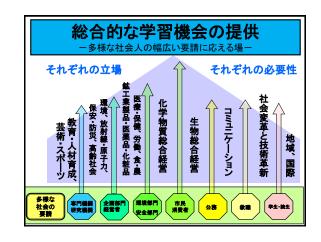
受講者及び講師のアンケートに関する規定

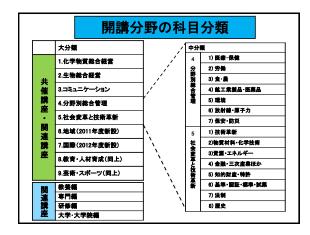
知の市場友の会規約

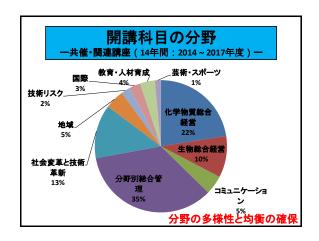
認識の共有化のため規範の明確化と公開

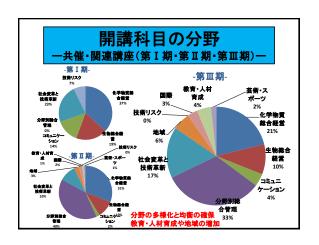
要領による運営体制の簡素化・効率化 業務及び年間予定に関する要領 開講機関と開催地の表記及び科目の分類と表示に関する要領 ホームページの開設及び共通受講システムの導入に関する要領 広報に関する要領 ID及びパスワードの設定並びに管理に関する要領 講義資料の作成及び知的財産権の扱いに関する要領 講義の準備と進め方に関する細目 資料などの保管及び電子的方式でつくられる資料の名称付けに関する要領 受講修了証の作成及び発行の方法及び手順に関する要領 年次大会の開催に関する要領 知の市場奨励賞の授与の決定手順及び選者基準に関する要領 活動の合理化のため手段や様式の標準化と共有

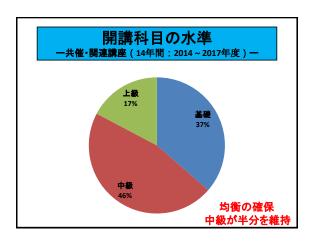
教育の基本方針 大学院水準のしっかりとした 1. 総合的な学習機会の提供 自己研鑽の機会の提供 社会においてそれぞれの立場で役割を果たす人材の育成に資するため、現代の社会と世界の動向を理解するために必要な広範な領域を学ぶ機会を提供 2. 実践的な学習機会の提供 専門機関・研究機関、産業界、NPO・NGO、大学との連携により、実務経験を豊富に有する者が講師として参画し、実社会に根ざした学ぶ機会を提供 3. 充分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択 受講者の的確な科目選択に資するため、科目を分野別、水準別に分類して明示し、 議議内容や議師などの情報、議座の計画と実績に関する情報など詳細な情報を提供したうえて、受講者自身が自らの必要に応じて自らの判断と責任で科目を選択 4. 大学・大学院に準拠した厳しい成績評価 応募動機の確認から始まり、職義毎に出席を確認し15回小レポートを提出。最終レポートを提出。大学・大学院に準拠した基準に従い、出席状況と最終レポートを評価 して所定の基準を満たした受職者に対しては科目毎に受講修了証を交付

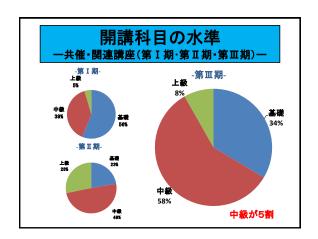




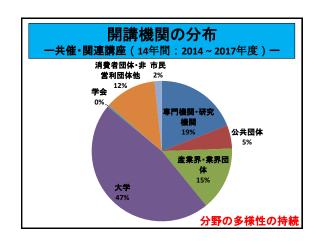


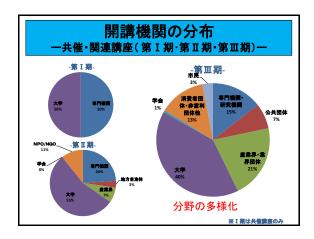


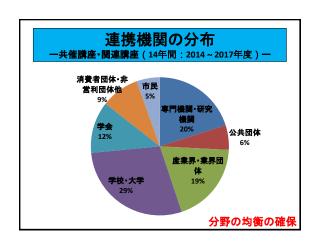


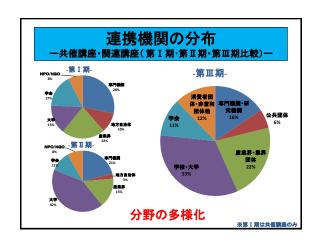


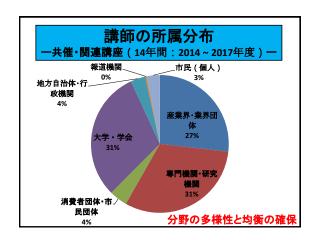


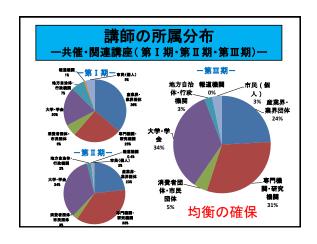


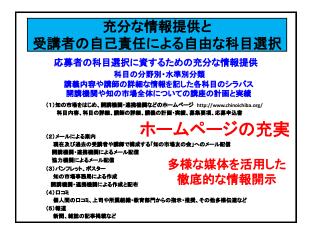


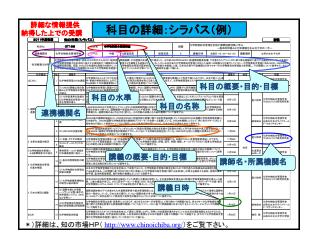


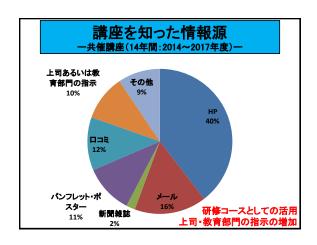


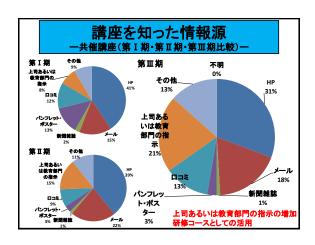




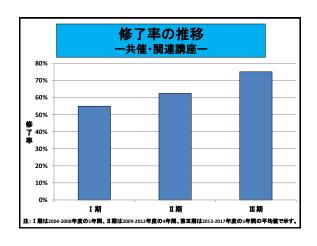


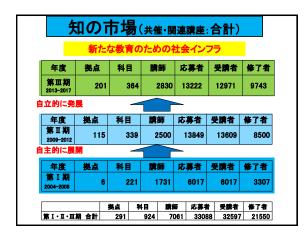


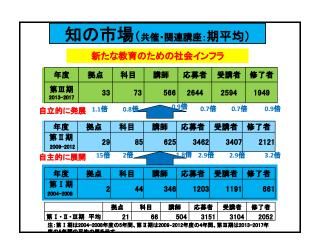


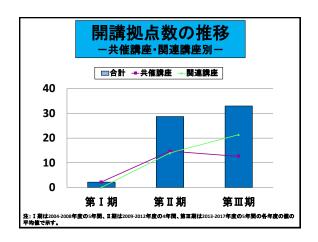


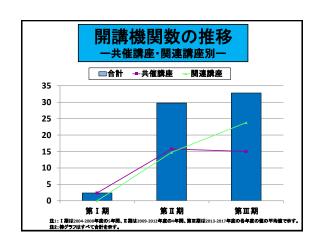
大学・大学院に準拠した厳しい成績評価 (1)-1 毎回の授業毎に出席状況を厳格に管理 (1)-2 毎回の授業毎に理解度確認のため小レポート提出 (1)-3 科目終了時に、最終レポートを提出 (2)受講者の成績評価は、大学の学部・大学院の採点評価基準に準拠して評価 ① 出席50点消点、レポート50点消点の合計で採点 ② 出席点は15回の出席で満点とし、それより少ない出席日数の場合は、出席日数に追以下の場合は履修放業とみなす。 ③レポート点は精養内容の理解度1、2、3自らの考えや主張、論理性や特策すべき点ごとに個別に評価し、加点する。 (3)所定の基準を満たした受講者に対しては科目毎に受講修了証を交付 A(80~100点)、B(70~79点)、C(60~69点)を合格とし、Aのうち特に優秀な者をSと判定。大学院水準のしっかりとした教育

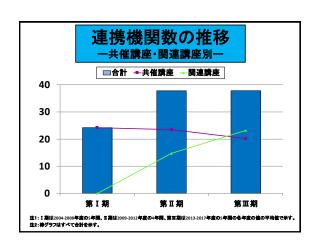


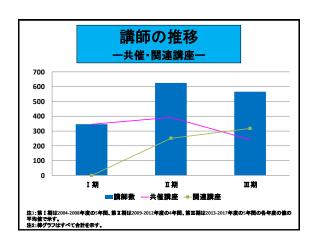


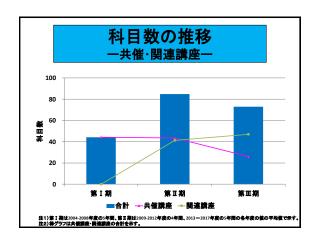




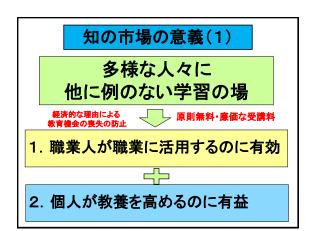






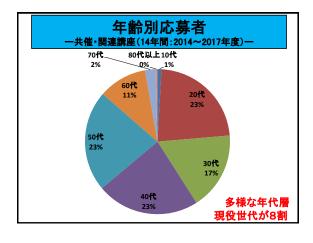


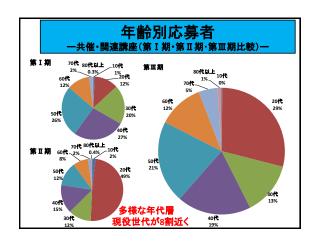
	開講状況の推移 -第1・II・II 乗列平均- (開講機関・連携機関・友の会・協力機関)					
	年度	第 I 期 (2004-2008年度)	第 II 期 (2009-2012年度)	第皿期 (2013-2017年度)		
開講	処点	2	29	33		
開講	機関・連携機関	26	41	50		
	別講機関	2	30	34		
;	直携機関	25	38	38		
友の:	会会員	2857	3333	4988		
協力	養関	0	64	81		

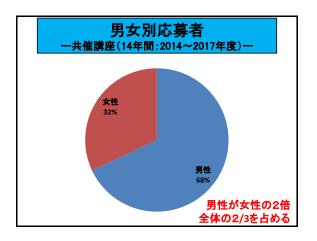


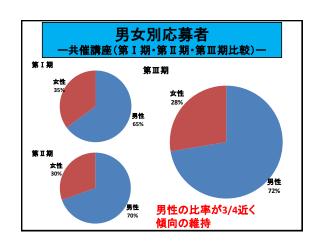
知の世界の拡大の系譜 ・好奇心指向型(キュアロシティ・ドリブン) ・欲求指向型(デザイア・ドリブン) 20世紀初頭~ ・戦略(構想)指向型(シナリオ・ドリブン) 20世紀第4四半期~

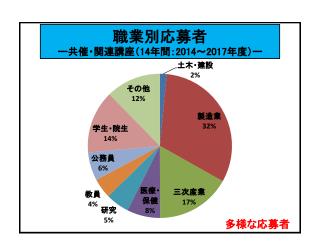


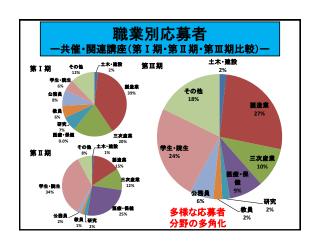












	受講者の多い組織上位10傑 - 第 I 期~第II 期(2004~2017年度) -							
	全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名							
順位	所属名称	延べ人 数	順位	所属名称	延べ人 数			
1	お茶の水女子大学	205	6	山陽動物医療センター	76			
2	花王	120		新エネルギー・産業技術 総合開発機構(NEDO)	75			
3	動物臨床医学研究所	107	8	住友ベークライト	72			
4	旭硝子(AGC)	98	9	出光興産	70			
5	ライオン	93	10	早稲田大学	69			

	受講者の多い組織11位〜20位 - 第 I 朔〜第Ⅲ朔(2004〜2017年度) -							
		全 2449 組織から延べ 146	29 名か	で受調	構:1組織あたり受講者 6 名			
恒位		所属名称	延べ 人数	順位	所属名称	延べ 人数		
1	1	パナソニック	67	15	東京大学	56		
1:	2	ADEKA(旭電化工業)	64		お茶の水女子大学 附属中学校	55		
1:	2	宇野動物病院	64	18	三井化学	54		
14	4	米子動物医療センター	61	19	キャノン	53		
15	5	化学物質評価研究機構	56	20	製品評価技術基盤機構	47		

受講者の多い組織21位~34位 - 第1期~第Ⅲ期(2004~2017年度)-						
	全2449組織から延べ1	4629 名	が受	ē講:1組織あたり受講者 €	名	
順位	所属名称	延べ 人数	順位	所属名称	延べ 人数	
21	舞鶴動物医療センター	46	28	日本アイ・ビー・エム	40	
21	日本生活協同組合連合会	46	28	三菱レイヨン	40	
21	農林水産省	46	28	日本リファイン	40	
24	東京久栄	43	31	杉並保健所	39	
24	特許庁	43	31	凸版印刷	39	
24	宇部興産	43	31	東京都下水道局	39	
27	富士フィルム	41	34	住友化学	38	

受講者の多い組織35位~53位 - 第 I 期~第Ⅲ期(2004~2017年度)-全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名 延べ 順 所属名称 所属名称 位 人数 位 人数 35 正木技術士事務所 37 41 シンジェンタ・ジャパン 33 35 三菱化学テクノリサーチ (ダイヤリサーチマーテック) 37 46 綜研化学 32 37 シラナガ動物病院 36 46 高砂香料工業 32 38 東芝 35 46 帝人(帝人化成) 32 39 日立製作所 34 49 オリンパス 31 41 住化分析センター 33 49 関東化学 31 41 帝国石油 33 49 昭和電工 31 41 放送大学 33 **53** サッポロビール 29

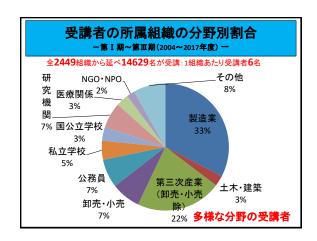
	受講者の多い組織53位~71位 - 第1期~第Ⅲ期(2004~2017年度)-							
	全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名							
恒位		延べ 人数	順位	所属名称	延べ 人数			
5	富士ゼロックス	29	62	東京テクニカルカレッジ	26			
5	東京湾と荒川・利根川・多摩 川を結ぶ水フォーラム	29	62	生活協同組合コープみらい	26			
5	クラレ	28	62	シニアボランティア経験を活 かす会	26			
5	内閣府	28	66	埼玉県立和光高等学校	25			
5	井笠動物医療センター・小 出動物病院	28	66	市民科学研究室	25			
5	本田研究所	28	66	アース製薬	25			
6	大塚製薬	27	66	セントラル硝子	25			
6	大日本除虫菊	27	66	エルピーダメモリ	25			
6:	清水建設	26	71	アサヒビール	24			

受講者の多い組織71位~85位 - 第 I 期~第Ⅲ期(2004~2017年度) -						
	全2449組織から延べ146	29 名#	が受調	溝:1組織あたり受講者 6 名		
順位	所属名称	延べ 人数	順位	所属名称	延べり数	
71	NTTデータ	24	82	大日精化工業	22	
71	協和発酵キリン(協和発酵工業)	24	82	環境管理センター	22	
71	アリスタライフサイエンス	24	82	味の素	22	
71	ブレーメン・コンサルティング	24	85	明治大学	21	
71	東京都北区滝野川第三小学校	24	85	武田栄一事務所	21	
71	エステー	24	85	デュポン	21	
71	日立化成工業	24	85	BASFジャパン(BASFアグロ)	21	
79	ヒゲタ醤油	23	85	富士通	21	
79	明電舎	23	85	HOYA	21	
79	コニカミノルタ	23	85	まつかわ動物病院	21	

受講者の多い組織92位~107位 - 第 I 期~第Ⅲ期(2004~2017年度) -									
	全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名								
順位	所属名称	延べ 人数	順位	所属名称	延べ 人数				
92	電気化学工業	20	99	三菱マテリアル	18				
92	大日本印刷	20	99	横浜市鶴見保健センター	18				
	NPO法人かながわ環境カウン セラー協議会	20	99	ソニー	18				
92	杉崎技術士事務所	20	99	産業技術総合研究所	18				
92	サン・ペットクリニック	20	107	新日本製鐵	17				
92	危険管理士会	20	107	横河電機	17				
98	曙ブレーキ工業	19	107	日本無機薬品協会	17				
99	ダスキン	18	107	オオスミ	17				
99	イカリ消毒	18	107	前川製作所	17				
	協和発酵ケミカル(KHネオケ ム)	18	107	フジワラ動物病院	17				
99	中央労働災害防止協会	18	107	キューピー	17				



10科目以上の受講者の多い組織 -第I 期~第II期(2004~2017年度) -							
全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名							
		10科目以上受認	構した:	者が	1名: 224組織		
順位	所	属名称	人数	順位	所属名	3 称	人数
1	動物臨床医学	学研究所	6	4	お茶の水女子大学	附属中学校	2
2	花王		4	4	三井化学		2
3	山陽動物医療	テセンター	3	4	日本オートケミカ	ル工業会	2
4	帝国石油		2	4	大塚製薬		2
4	米子動物医療	テセンター	2	4	協和発酵		2
4	舞鶴動物医療	寮センター	2	4	化学物質評価研	究機構	2
4	出光興産		2	4	サン・ペットクリニ	ック	2
4	特許庁		2	4	日本アイ・ビー・エ	- L	2
4	大日精化工第	ŧ	2	4	宇野動物病院		2
4	旭硝子(AGC)	2				



	受講科目数の多い受講者上位100名 - 第 I 期~第II期(2004~2017年度) -									
	全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名									
順	位	受講科目数	人数	順位	受講科目数	人数	順位	受講科目数	人数	
1	1	53科目	1	13	30科目	1	37	37科目	5	
2	2	49科目	1	14	29科目	2	42	19科目	8	
3	3	43科目	1	16	28科目	1	50	18科目	2	
4		42科目	2	17	27科目	1	52	17科目	5	
6	3	37科目	2	18	26科目	2	57	16科目	7	
8	3	36科目	1	20	25科目	3	64	15科目	8	
9	•	35科目	1	23	24科目	2	72	14科目	8	
10	0	33科目	1	25	23科目	2	80	13科目	17	
1	1	32科目	1	27	22科目	3	97	12科目	14	
1:	2	31科目	1	30	21科目	7	平均	受講科目数:	20科目	

受講科目数の多い受講者100傑 - 第 I 期~第Ⅲ期(2004~2017年度)-								
全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名 男性:81名 女性:29名 順位 性別 所属 科目数 業種分類								
1	男	自営業	53	その他				
2	女	フリーライター	49	その他				
3	女	東京湾と荒川・利根川・多摩川を結ぶ 水フォーラム	43	NGO , NPO				
4	男	お茶の水女子大学中学校	42	国公立校				
4	男		42	その他				
6	男	正木技術士事務所	37	専門サービス・コンサ ルティング				
6	男	食品コンサルタント	37	専門サービス・コンサ ルティング				
8	男	無所属、自宅	36	無職				
9	女	東京久栄	35	土木·建設				
10	男	市民科学研究室	33	NGO , NPO				

	受講科目数の多い受講者100傑 - 第 I 朔~第Ⅲ朔(2004~2017年度) -						
全244	全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名 男性:81名 女性:29名						
順位	性別	所属	科目数	業種分類			
11	男	NPO法人環境経営学会	32	NGO , NPO			
12	男	高砂香料工業	31	化学工業·石油製品			
13	女	東京都北区滝野川第三小学校	30	国公立校			
14	女	明治学院大学	29	私立大学			
14	男	エルピーダメモリ	29	電気機械器具製造			
16	男	AGC	28	非鉄金属製造			
17	女	無職	27	無職			
18	男	国際石油開発帝石	26	化学工業・石油製品			
18	女	シニアボランティア経験を活かす会	26	NGO , NPO			
20	男	埼玉県立和光高等学校	25	国公立校			

^244	受講科目数の多い受講者100傑 - 第 I 期~第Ⅲ期(2004~2017年度) - 全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名 男性:81名女性:29名						
重244	サ組織がた 性別	T	科目数				
23	男	保土谷化学工業環境保安·品質保証部		化学工業·石油製品			
23	男	コーセー研究所	24	化学工業·石油製品			
25	男	ヒゲタ醤油	23	食料品製造			
25	男	デュポン	23	化学工業·石油製品			
27	男	三菱レイヨン	22	繊維·繊維製品			
27	男		22	その他			
27	男		22	その他			
30	男	武田栄一事務所	21	専門サービス・コンサル ティング			
30	男	農林水産先端技術産業振興センター	21	公的研究機関			
30	男	都市エコロジーコンサルティング	21	専門サービス・コンサル ティング			

	受講科目数の多い受講者100傑 - 第 I 期~第II期(2004~2017年度) -								
全244	全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名男性:81名女性:29名								
順位	順位 性別 所属 科目数 業種分類								
30	男	環境管理センター	21	専門サービス・コンサル ティング					
30	男	ライオン分析センター	21	化学工業·石油製品					
30	男	フレゼニウスカービジャパン	21	化学工業·石油製品					
30	男	クラレ	21	化学工業·石油製品					
37	女	特許庁	20	公務員(行政関係)					
37	男	鶴見福祉保健センター	20	その他公務員(保健所含)					
37	女	杉並区衛生試験所	20	その他公務員(保健所含)					
37	女		20	その他					
37	女		20	その他					

受講科目数の多い受講者100傑 - 第 I 期~第Ⅲ期(2004~2017年度)-全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名 男性:81名女性:29名 順位 性別 科目数 業種分類 19 公務員(行政関係) 農林水産省 42 男 19 化学工業·石油製品(製 薬含) 男 日本化成 42 19 輸送用機械器具製造 女 曙ブレーキ中央技術研究所 男 19 NGO , NPO 42 危険管理士会 化学工業·石油製品(製 薬含) 42 男 エス・ディー・エス バイオテック 19 非鉄金属製造 42 男 AGC 19 42 その他 その他 42 女 19 50 女 前川製作所 18 精密機械器具製造 50 さいたま市立沼影小学校 18 国公立校 女

	受講科目数の多い受講者100傑 - 第1期~第Ⅲ期(2004~2017年度)-							
全 244 9	組織から	延べ 14629 名が受講:1組織あたり受	講者6名	男性:81名 女性:29				
順位 性別 所属 科目数 業種分類								
52	男	大日精化工業	17	化学工業·石油製品				
52	男	埼玉県	17	公務員(行政関係)				
52	男	花王	17	化学工業·石油製品				
52	男	インターパック	17	その他製造業				
52	男	JVCケンウッド	17	一般機械器具製造				
57	男	日本技術士会会員	16	その他				
57	男	自営業	16	その他				
57	男	花王	16	化学工業·石油製品				
57	男	セレス我孫子事業所	16	専門サービス・コンサ ルティング				
57	男	グローバル環境エネルギー研究所	16	民間研究機関				

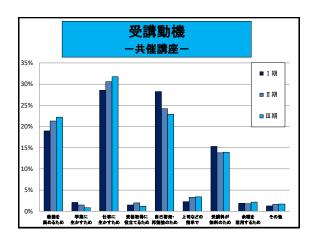
全 244 9	受講科目数の多い受講者100傑 - 第 I 期~第Ⅲ期(2004~2017年度) - 全2449組織から延べ14629名が受講: 1組織あたり受講者6名 男性:81名女性:29名								
順位	順位 性別 所属 科目数 業種分類								
57	男		16	その他					
57	男		16	その他					
64	男	明電舎 システム事業企画部	15	電気機械器具製造					
64	男	出光興産	15	化学工業·石油製品 (製薬含)					
64	男	化学物質評価研究機構	15	民間研究機関					
64	女	ヤマザキナビスコ	15	食料品製造					
64	男	オオスミ	15	専門サービス・コンサ ルティング					
64	男	かながわ環境カウンセラー協議会	15	NGO , NPO					
64	女	ucc	15	一般機械器具製造					
64	男	C&C研究センター	15	公的研究機関					

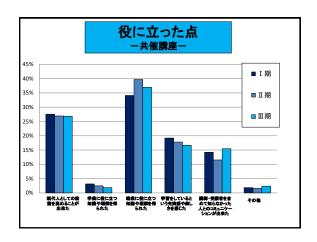
	受講科目数の多い受講者100傑 - 第 1 期~第Ⅲ期(2004~2017年度) -							
全244	全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名 男性:81名 女性:29名 順位 性別 所属 科目数 集積分類							
72	女	府中市立府中第四中学校	14	国公立校				
72	男	尾崎哲二	14	その他				
72	男	日立製作所 研究開発グループ	14	電気機械器具製造				
72	男	極東技工コンサルタント	14	専門サービス・コンサル ティング				
72	男	協和発酵ケミカル	14	化学工業·石油製品(製薬 含)				
72	男	ダイヤリサーチマーテック	14	民間研究機関				
72	男	かんきょう楽行	14	その他				
72	男	NPO法人リスクセンス研究会	14	NGO , NPO				
80	男	無職	13	無職				
80	女	墨田区役所	13	公務員(行政関係)				

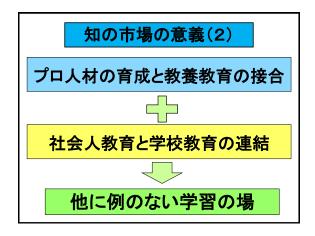
全 244 9	受講科目数の多い受講者100傑 - 第 I 期~第Ⅲ期(2004~2017年度) - 全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名 男性:81名女性:29名						
順位	性別	所属	科目数	業種分類			
80	男	富士精工	13	一般機械器具製造			
80	男	板橋区	13	公務員(行政関係)			
80	男	日本アイ・ビー・エム	13	電気機械器具製造			
80	男	独立行政法人国際協力機構JICA	13	公的研究機関			
80	男	長谷川工業	13	その他製造業			
80	男	大日精化工業	13	化学工業·石油製品 (製薬含)			
80	女	綜研化学	13	化学工業·石油製品 (製薬含)			
80	男	千葉県がんセンター	13	医療機関			
80	女	食のコミュニケーション円卓会議	13	専門サービス・コンサ ルティング			
80	男	原子力安全技術センター派遣職員	13	公的研究機関			

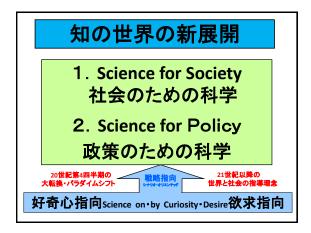
全2449	受講科目数の多い受講者100傑 - 第1期~第Ⅲ期(2004~2017年度) - 全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名 男性:81名女性:29名							
順位 性別 所属 科目数 業種分類								
80	女	いちい	13	卸売·小売·飲食店				
80	男	イカリ消毒	13	専門サービス・コン サルティング				
80	男	アリスタライフサイエンスリスク管理部	13	化学工業・石油製品				
80	女	KMコンサルティング	13	専門サービス・コン サルティング				
80	男	ADEKA	13	化学工業·石油製品				
97	男	味の素冷凍食品	12	食料品製造				
97	女	放送大学	12	私立大学				
97	男	富士フイルム	12	化学工業·石油製品				
97	女	日本エヌ・ユー・エス	12	専門サービス・コン サルティング				
97	男	大塚製薬	12	化学工業·石油製品				

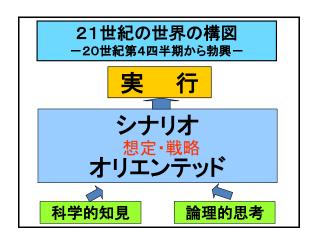
⇔244	受講科目数の多い受講者100傑 - 第 I 期~第 II 期(2004~2017年度) -								
順位	全2449組織から延べ14629名が受講:1組織あたり受講者6名 男性:81名 女性:29名 順位 性別 所属 科目数 業種分類								
97	男	大塚製薬	12	化学工業·石油製品 (製薬含)					
97	男	村井技術士事務所	12	専門サービス・コンサ ルティング					
97	男	生活協同組合東京マイコープ	12	卸売・小売・飲食店(生 協含)					
97	女	清水建設	12	土木・建設					
97	男	江東区	12	公務員(行政関係)					
97	男	久保田商事	12	卸売・小売・飲食店					
97	女	環境情報科学センター	12	その他					
97	男	エコアクション21	12	その他					
97	女		12	その他					

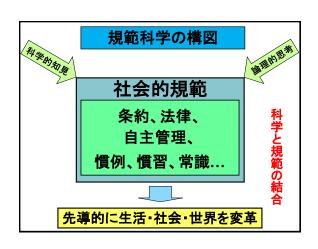












レギュラトリー・サイエンス 規範科学

- 1. Science for of Regulation 規範のための科学
- 2. Regulation on by Science 科学に基づく規範(Evidence ペース)

シナリオ(戦略)指向型の新たな事象 - 20世紀 第4四半期以降 -

- 1. 化学物質の総合管理
- 2. オゾン層の保護

オゾン層破壊物質の管理

- 3. 地球温暖化の防止 温暖化係数を持つ化学物質の管理
- 4. 組換え体の管理
- 5. 新型インフルエンザの防疫

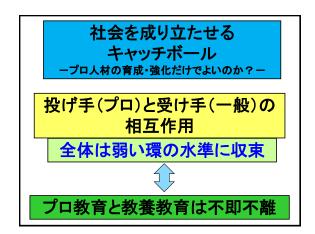
科学的シナリオ・想定に 基づいて戦略的に動く 社会と世界

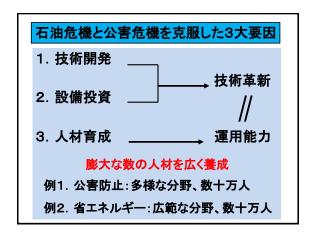
プロなくして、 法律の制定も運用も 企業や各セクターにおける 判断も行動もなし。

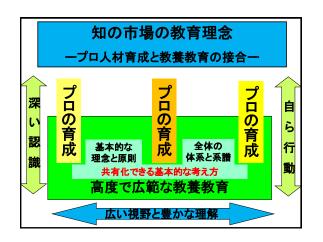


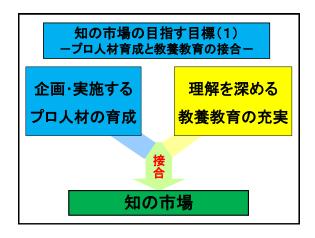


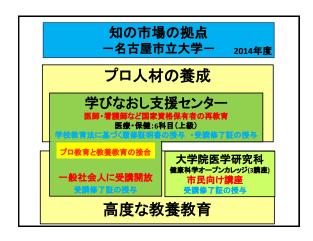
幅広い知識の体系と系譜を理解し(=**) 専門知識の意味を語れずして、 信頼できる判断をし、社会を動かし得る プロではありえず

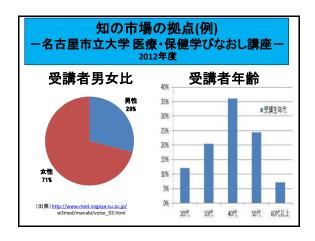


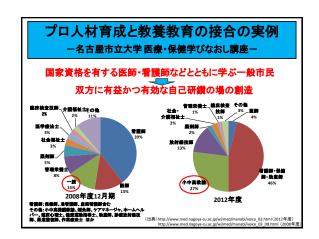


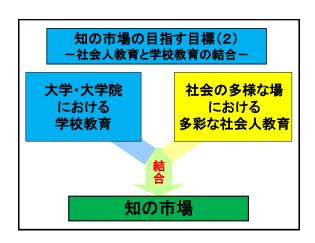












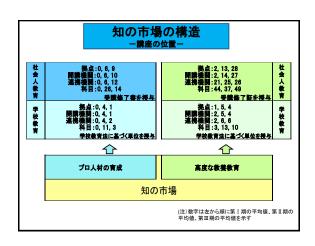
社会人教育から学校教育への展開(2014年度) 社会人教育の科目が 同時に 大学・大学院教育に活用されている事例 合計5科目 大学・大学院教育 としての科目 社会人教育としての科目 実施大学·大学院 規範科学事例研究1 化学物質総合経営学事例研究1 リスク管理(演習) お茶の水女子大学 法学入門 安全学入門 明治大学大学院 理工学研究科 新領域創造専攻 安全学特論1 製品機械安全特論 新領域創造特論3



社会人教育から学校教育への展開(2014年度)					
社会人教育の内容や講師が 大学・大学院教育に活用されている事例 合計14科目					
大学・大学院教育としての科目	実施大学·大学院				
化学物質総合管理学	早稲田大学 理工学術院 先進理工学研究科				
食農総合管理学	共同先進健康科学事攻				
生命科学振論A(建築·電子光学・ 経営·資源·社会工学)					
生命科学振論A(総合機械)	早稲田大学 理工学術院 先進理工学部				
生命科学概論A(化学·応用化学)					
生命科学振論B(生命医科)					
社会技術革新学	お茶の水女子大学				
規範科学	る赤の水メナスチ				
サイエンスコミュニケーション実践論	筑波大学大学 腺				
リスクコミュニケーション入門	ネスヘナヘナホ				
資源・エネルギー・安全論	東京工業大学大学院 理工学研究科 化学工学専攻				
社会技術革新論a	大分大学教育福祉科学部				
化学物質総合管理論a					
日本力論b	鹿児島水産高等学校				

社会人教育から学	校教育への展開(2013年度)						
社会人教育の内容や講師が 合計12科目 大学・大学院教育に活用されている事例							
大学・大学院教育としての科目	実施大学・大学院						
化学物質総合管理学							
感染症総合管理学	早稲田大学 理工学術院 先進理工学研究科						
生活環境総合管理学	共同先進健康科学専攻						
医薬総合管理学	早稲田大学 理工学術院 先進理工学研究科 生命医科学専攻						
生命科学振論A(建築·電子光学·経営· 資源·社会工学)							
生命科学振論A(総合機械)	早稲田大学 理工学術院 先進理工学部						
生命科学振論A(化学·応用化学)	1						
生命科学振論B(生命医科)	1						
安全管理概論	h#a4+7+#						
社会技術革新学療論	お茶の水女子大学						
社会技術革新学振論	東京工業大学 工学部 高分子工学科						
資源・エネルギー・安全論	東京工業大学大学院 理工学研究科 化学工学専攻						

学校教育から社会人教育への展開(2014年度) 大学・大学院教育の科目が 同時に 社会人教育に活用されている事例 合計5科目 大学・大学院の教育 としての科目 実施大学・大学院 社会人教育としての科目 社会技術革新学 社会技術革新学基礎論 東京・お茶の水女 規範科学 規範科学基礎論 サイエンスコミュニケーション実践論 サイエンスコミュニケーション実践論 筑波大学大学院 リスクコミュニケーション入門 リスクコミュニケーション入門 東京·東京工業大学大学院 資源・エネルギー・安全論 資源・エネルギー・安全基礎論



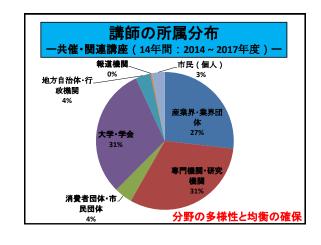
知の市場の意義の拡大(1)

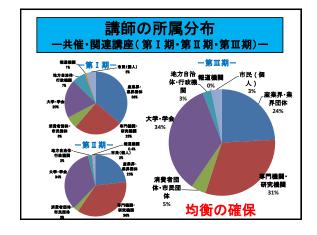
- 1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な 人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会 おいて提供する。
- 2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。



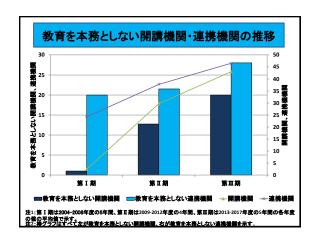
3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多彩な 人々に、講師として現場を基点にしつつ教育に参画 する機会を提供する。

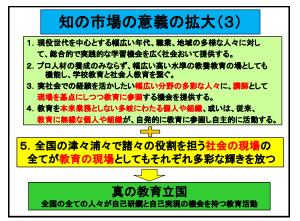
社会の多様性を反映する教育活動



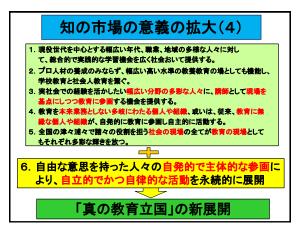


知の市場の意義の拡大(2) 1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広ぐ社会おいて提供する。 2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を整ぐ。 3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多彩な人々に、講師として現場を基点にしつの教育に参画する機会を提供する。 4. 教育を本来業務としない多岐にわたる個人や組織、或いは、従来、教育に無縁な個人や組織が、自発的に教育に参画し自主的に活動する。 社会の全員が参画する教育活動



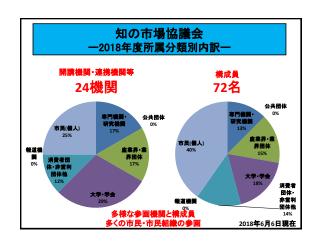


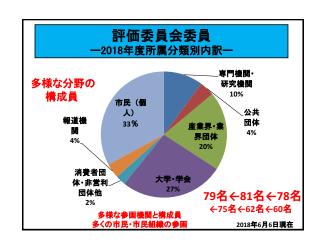


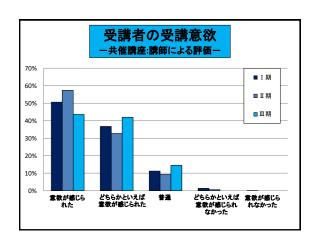


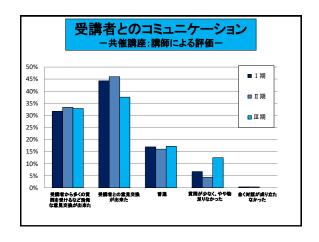


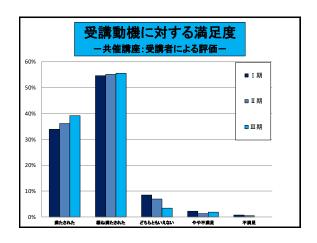
自己点検・外部評価 I. 自己点検評価 1. 協議会による評価 2. 受講者や講師による評価 ①講師による科目評価 ②受講者による講義評価 ③受講者による科目評価 I. 外部評価 1. 評価委員会による評価 2. 年次大会・奨励賞

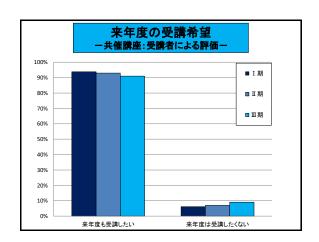












年次大会の目的と構成

- 1. 目的
- 1) 年次大会は、知の市場の運営に携わる関係者が当年度の活動の 実績や次年度の開講科目計画などを広く社会に対して公開して検 証を受ける場を提供する。
- 2)関係者が密接なコミュニケーションを行い認識の共有化を促進する 場を提供する。 公開による外部評価
- 2. 構成

認識の共有化

- 1) 開講機関及び連携機関の活動の計画及び実績の報告
- 2) 奨励賞の授与及び記念講演
- 3)特別講演
- 4)知の市場の活動報告



奨励賞の授与 -実績-

年度	受記	育者	講師	参画・協力機関		
	個人	機関		開講/ 連携機関	連携機関 のみ	合計
2010	1	_	0	3	0	4
2011	0	_	3	2	1	6
2012	0	_	5	1	0	6
2013	0	1	2	0	0	3
2014	0	0	1	0	0	1
2015	0	0	3	2	0	5
2016	1	0	1	0	0	2
2017	0	0	1	0	0	1
合計	2	1	16	8	1	28

(2018年6月6日現在)

知の市場の今後の展開

- 1. 恒常的な教育内容の向上
- 2. 全国の津々浦々の現場が参画



社会の現場を基点にした 自立的にして自律的な 自己研鑚と自己実現の基盤の構築

知の市場の今後の課題(1)

- 1. 分野の拡大と連携機関の拡充
- 1) 現代社会と世界動向を理解するために必要なより広範で総合的な自己研鑽の機会の提供
- 2)多様な連携機関の参画を拡大し、 多彩な講師による多岐にわたる科目の開講
- 2. 拠点の全国展開と開催機関の拡充
 - 1)自己研鑽の機会の日常化と普遍化を促進
- 2)多様な開講機関の参画を拡大し、開講拠点の多彩化 と全国化を促進

知の市場の今後の課題(2)

- 3. 参画機関の機能の強化
- (1)全機関
 - 1)参画機関の垣根を越えた協働・協力関係の構築2)活動基盤の強化と自立的な活動の拡充
- (2)教育機関(大学・大学院)の課題 1)大学・大学院の履修科目とし単位取得の対象として活用 2)大学・大学院の科目を社会人に開放するなど活用
- 4. 内外の教育を巡る新な動きとの連携

JMOOC•放送大学(

- 5. 基盤の強化
 - 1) 多彩な人々が自主的かつ主体的に参画する基盤を確立
 - 2) 自立的かつ自律的に発展していくための活動基盤を確立

